

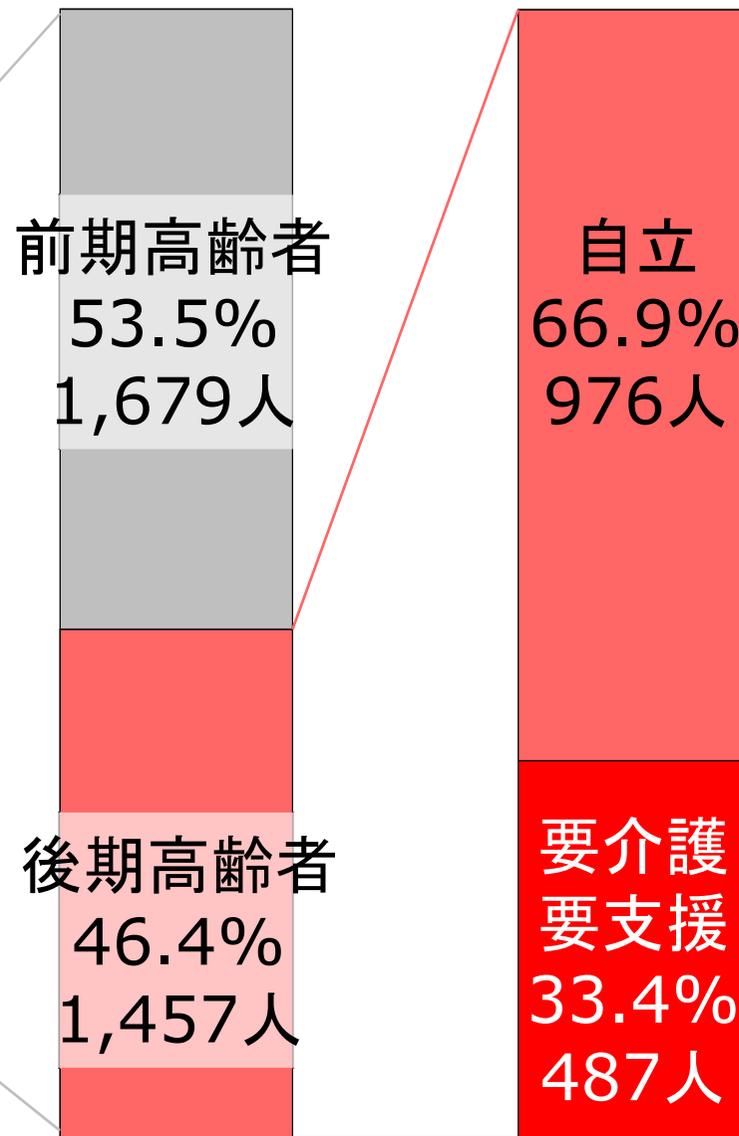
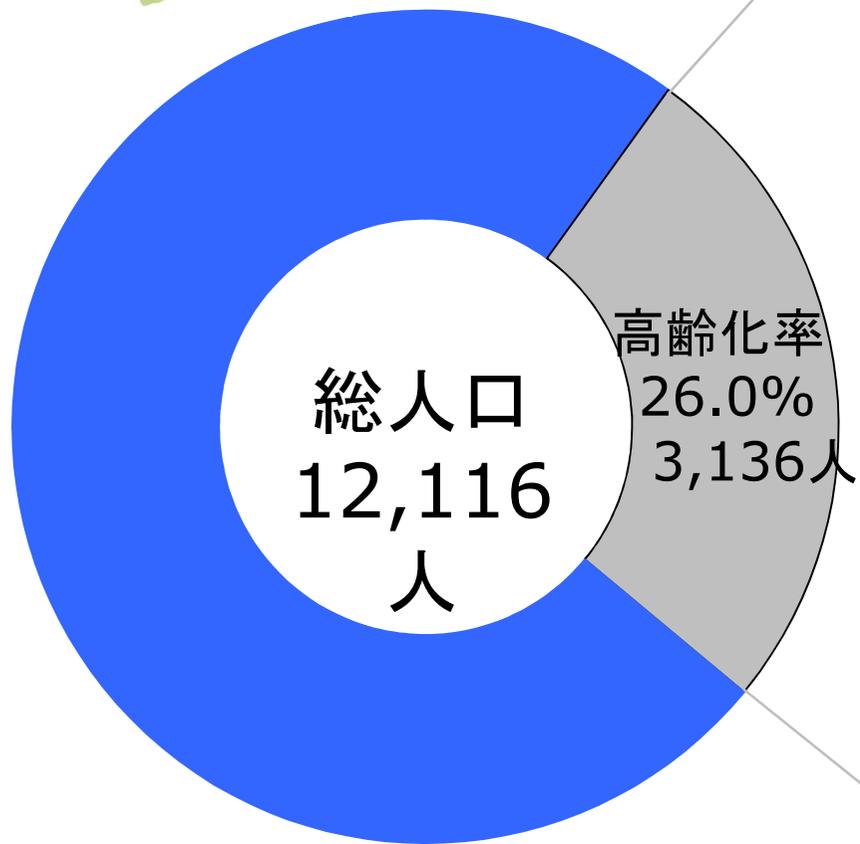
地域包括口腔ケアシステムの構築を目指して
～竜王町における個別訪問歯科指導事業について～



竜王町国民健康保険診療所（歯科）平井 由花



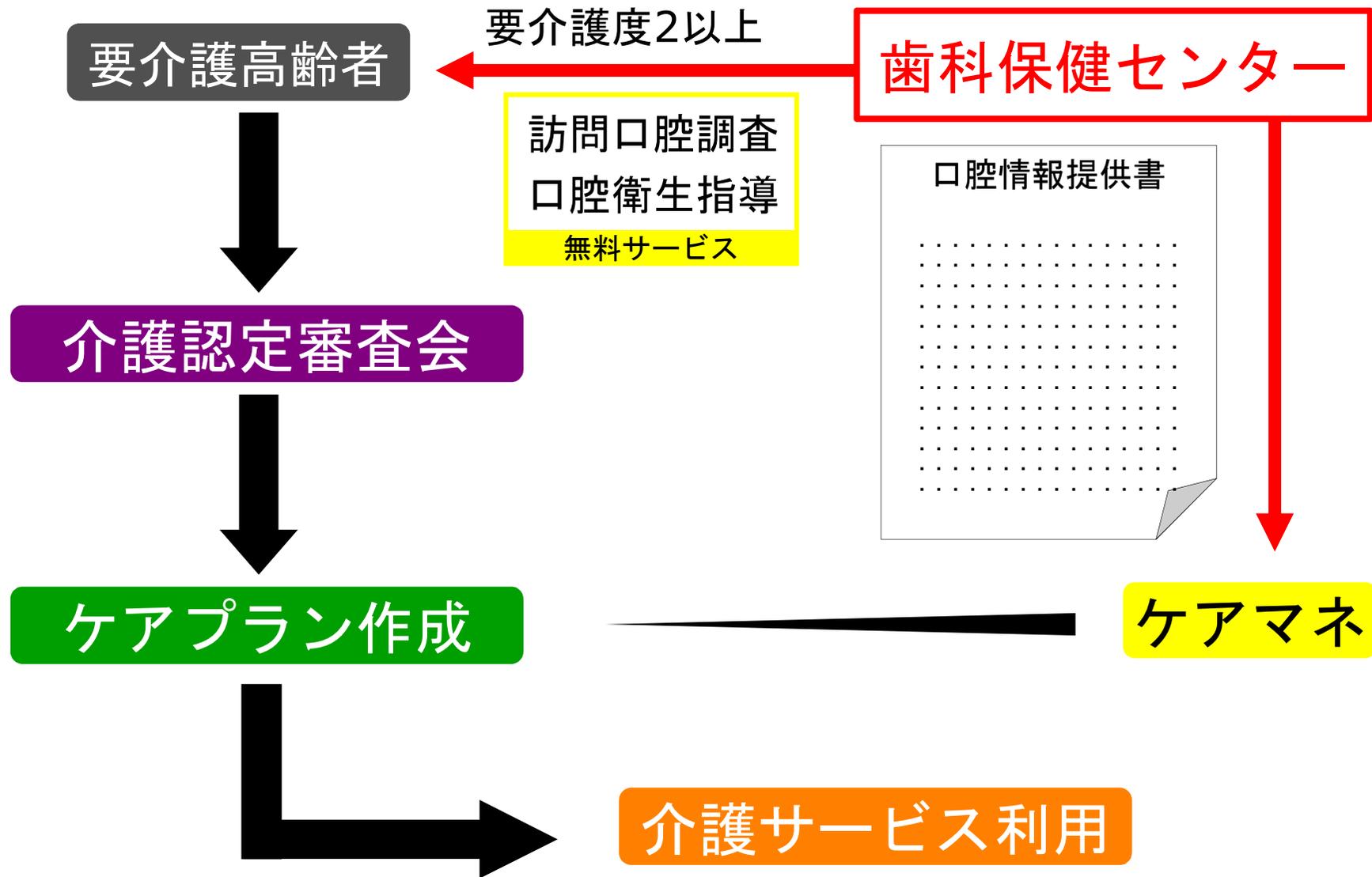
竜王町における後期高齢者の割合



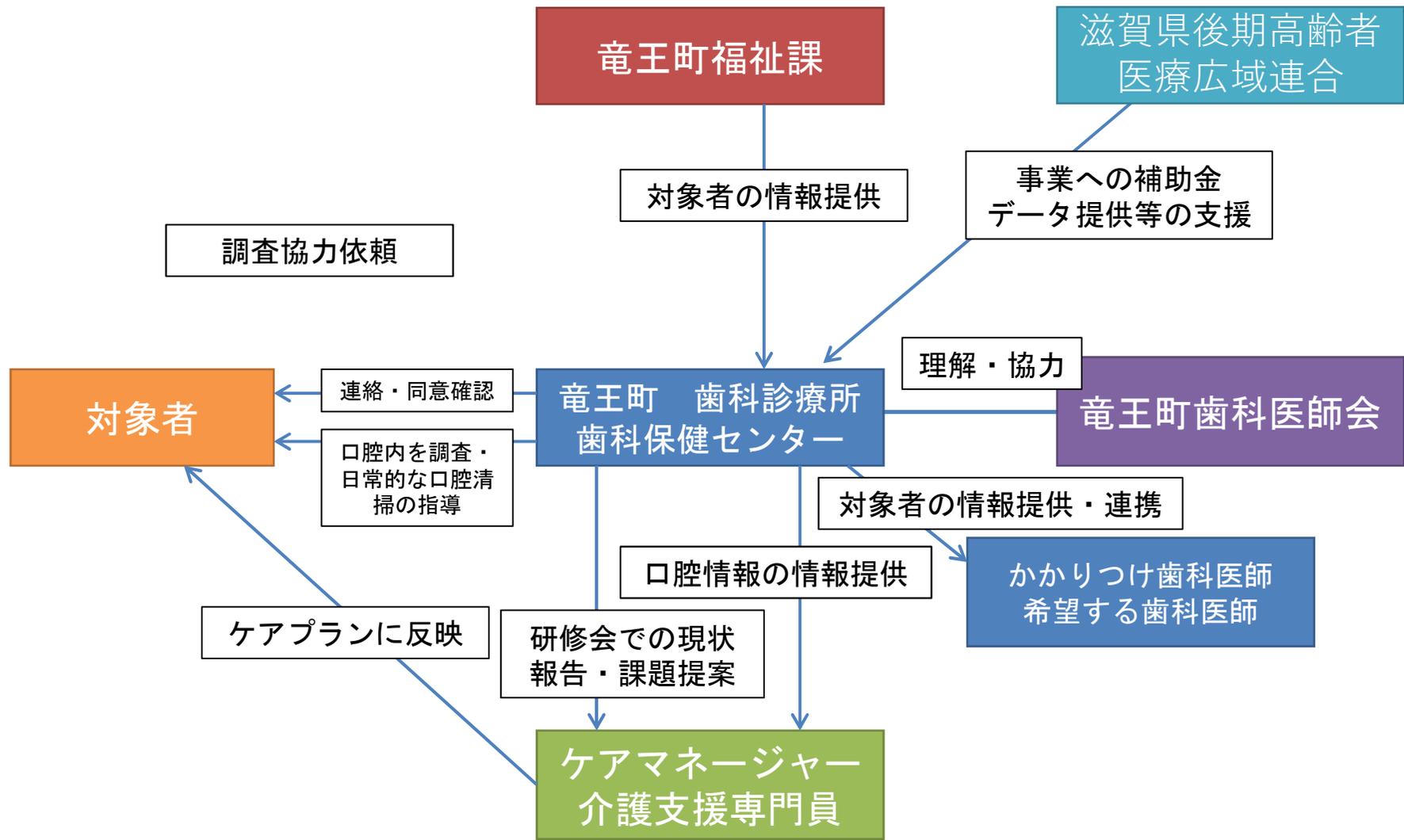
平成29年12月現在



竜王町における口腔情報提供システム



竜王町個別訪問歯科指導事業 実施体制図



滋賀県竜王町における口腔指導の取組

事業目的

口腔ケアの推進を図ることにより、誤嚥性肺炎の予防に寄与するとともに、口腔体操等を指導・普及させ口腔機能の向上と効果的な栄養摂取を図り、高齢者の健康保持・増進、QOLの向上に寄与する。

具体的な取組内容

歯科医師・歯科衛生士による個別訪問指導を実施
関係者へ情報提供し、対象者のケアプランに反映させる

訪問実施：口腔ケアに関する問診、口腔内調査

口腔ケアや発語訓練や頬部、唾液腺のマッサージ、舌のマッサージ等を行う。

事後：調査に基づき、口腔ケアの受給状況や推奨する口腔ケアプランなどを示した口腔情報提供書を対象者ごとに作成

担当ケアマネージャーや介護関係者、家族へ情報提供

対象者が治療を要する場合には、かかりつけ歯科医師に連絡

対象者が特別養護老人ホーム施設入所者である場合は介護担当者等に対象者の口腔内の問題点を教示し口腔ケアの実技指導

対象者・指導実施者

※入院、施設入所者は除く

要介護度（2～5）の者（113名）のうち、

事業へ調査協力いただける被保険者（80名）を訪問指導（平成30年3月31日現在）

⊖ 歯科衛生士が訪問しお口の中をチェック



⊖ 本人、介護者に歯磨きや義歯の清掃方法、姿勢等を指導

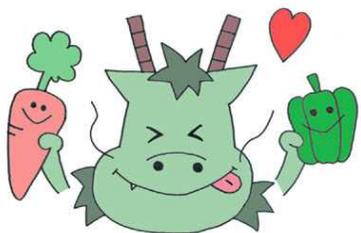


⊕ 咀嚼、嚥下など口の機能が低下しないよう、嚥下体操を指導

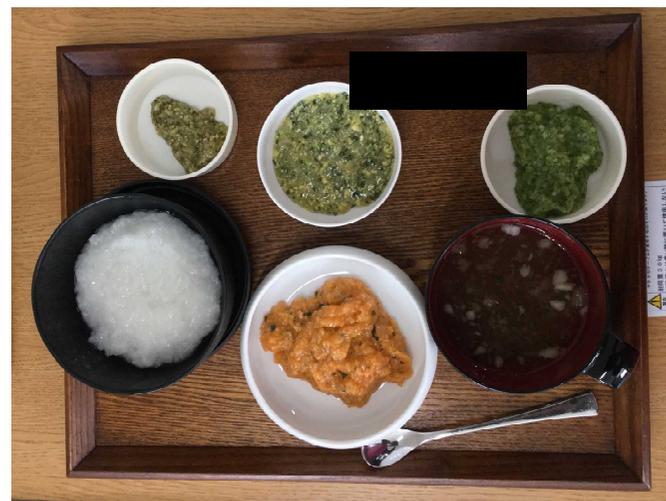


画像の使用は本人、家族の了承を得ています。

食事の話

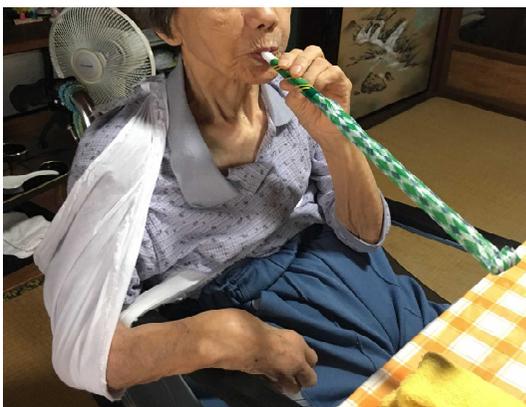


家の食事



デイの食事

ブローイング訓練



唾液腺マッサージ



口腔情報提供書

歯科保健センター → ケアマネジャー

口腔情報提供書

担当ケアマネジャー 殿 調査日 平成16年10月30日 竜王町国保歯科保健センター tel 0748-57-1133

1. 歯科医療・口腔ケアの受給状況

- 1) 歯科医療機関への受診 (歯科医療機関名 竜王町国保歯科診療所)
 過去に受診 (最終診療日 平成6年2月) 現在受診中
- 2) 訪問歯科診療の利用 (歯科医療機関名 竜王町国保歯科診療所)
 過去に利用 (最終診療日 平成11年9月) 現在利用中 (頻度 /月)
- 3) 訪問口腔ケアの利用 (歯科医療機関名)
 過去に利用 (最終診療日) 現在利用中 (頻度 /月)

調査対象者
竜王 太郎



歯科医療・口腔ケアの受給状況

2. 口腔の状況

1) 口腔機能障害
 嚥下機能 できる 嚥下障害あり (水分でむせる) 咀嚼障害あり (噛むことに大変不自由している)

2) 歯の状況
 歯の有無 なし (本) 要治療のむし歯の有無 なし (本)

3) 義歯の状況
 義歯の有無 あり (上顎 下顎)
 義歯の問題の有無 あり (開口時、義歯がよくはずれる)

4) その他、口腔の問題 (歯肉の炎症、歯の動揺、口内炎、口腔乾燥、口腔粘膜疾患等)
 あり (下顎前歯部歯肉に潰瘍が認められる (義歯による褥創と思われます))

5) 口腔の清掃状況
 歯 歯がない 義歯 不良 口腔粘膜 不良 口臭 あり

6) 口腔清掃の自力度
 うがい 一部介助 歯磨き 一部介助 義歯着脱 自立 義歯清掃 全介助

7) 口腔に影響を及ぼす薬剤の服用
 あり (サアミオン (口渇)、ノルバスク (口渇・歯肉肥厚・味覚障害)、レンドルミン (口渇))

現在または将来、発生の可能性が高い口腔問題
 咀嚼困難 誤嚥性肺炎 義歯の不適合 口臭
 口腔の痛み むし歯の多発 口腔粘膜疾患 その他 ()

口腔の状況に関する総括・介護サービスにおける歯科的観点からの留意事項
 義歯の安定が悪く、食事中によくはずれるようです。咀嚼能力改善のために義歯の調整あるいは新製が必要と思われます。本人、介護者も歯科診療を希望されましたので、当方から担当歯科医師に連絡しました。また、義歯清掃状況不良で嚥下障害が認められ、誤嚥性肺炎発症の可能性も考えられます。本人、介護者に義歯清掃等口腔ケアの指導を行いました。

口腔の状況

- ・ 口腔機能障害
- ・ 歯の状況
- ・ 義歯の状況
- ・ その他口腔の問題
- ・ 口腔の清掃状況
- ・ 口腔に影響を及ぼす薬剤の服用
- ・ 口腔内の問題点
- ・ 歯科観点からの留意事項

3. 推奨する口腔ケアプラン/歯科診療プラン

口腔ケアプラン (介護保険適用)

生活全般の解決すべき課題	ケア目標	口腔ケア項目	頻度	担当職種
口腔衛生状況不良と嚥下障害のため誤嚥性肺炎発症の危険がある	口腔の保清ができる 安全に食事ができる	口腔衛生指導 専門家による口腔清掃	2/M	歯科衛生士

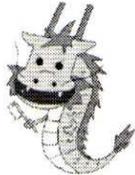
推奨する口腔ケアプラン
歯科診療プラン

歯科診療プラン (医療保険適用)

口腔の問題点	診療内容	頻度	担当職種
義歯の安定が悪いため咀嚼障害を認める	義歯調整 (新製)	2/M	歯科医師

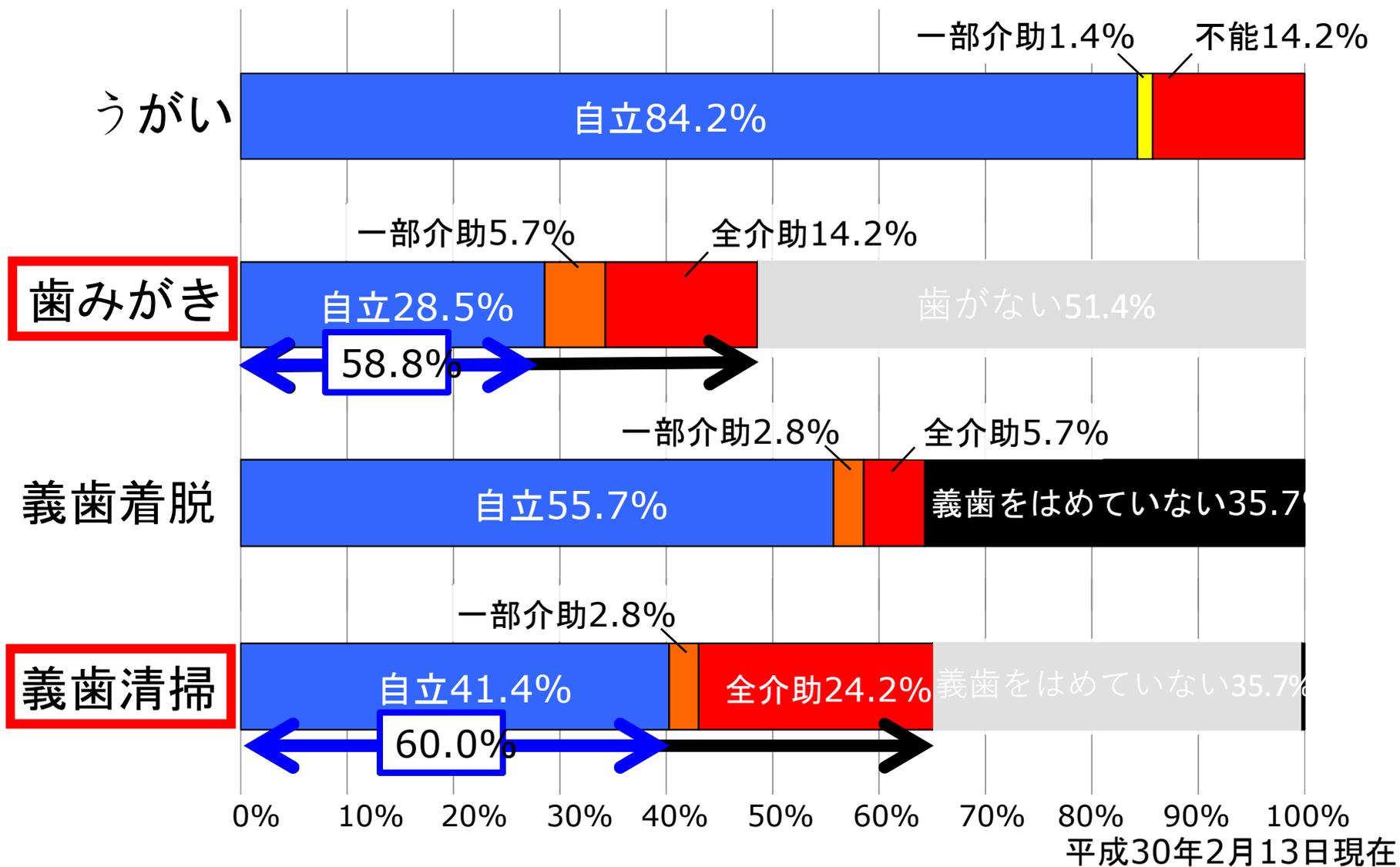
多職種との連携

訪問口腔調査

	様	平成	年	月	日	SpO2	脈拍
残存歯	本	良・不良・著しく不良／義歯			上・下	良・不良・著しく不良／口腔粘膜	良・不良・著しく不良
様へ歯科からお伝えしたい内容							
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"><div style="text-align: center;"><p>竜王町国民健康保険歯科診療所 TEL(0748)57-1133 歯科医師</p></div><div style="text-align: center;"><p>歯科衛生士</p></div><div style="text-align: center;"></div></div>							

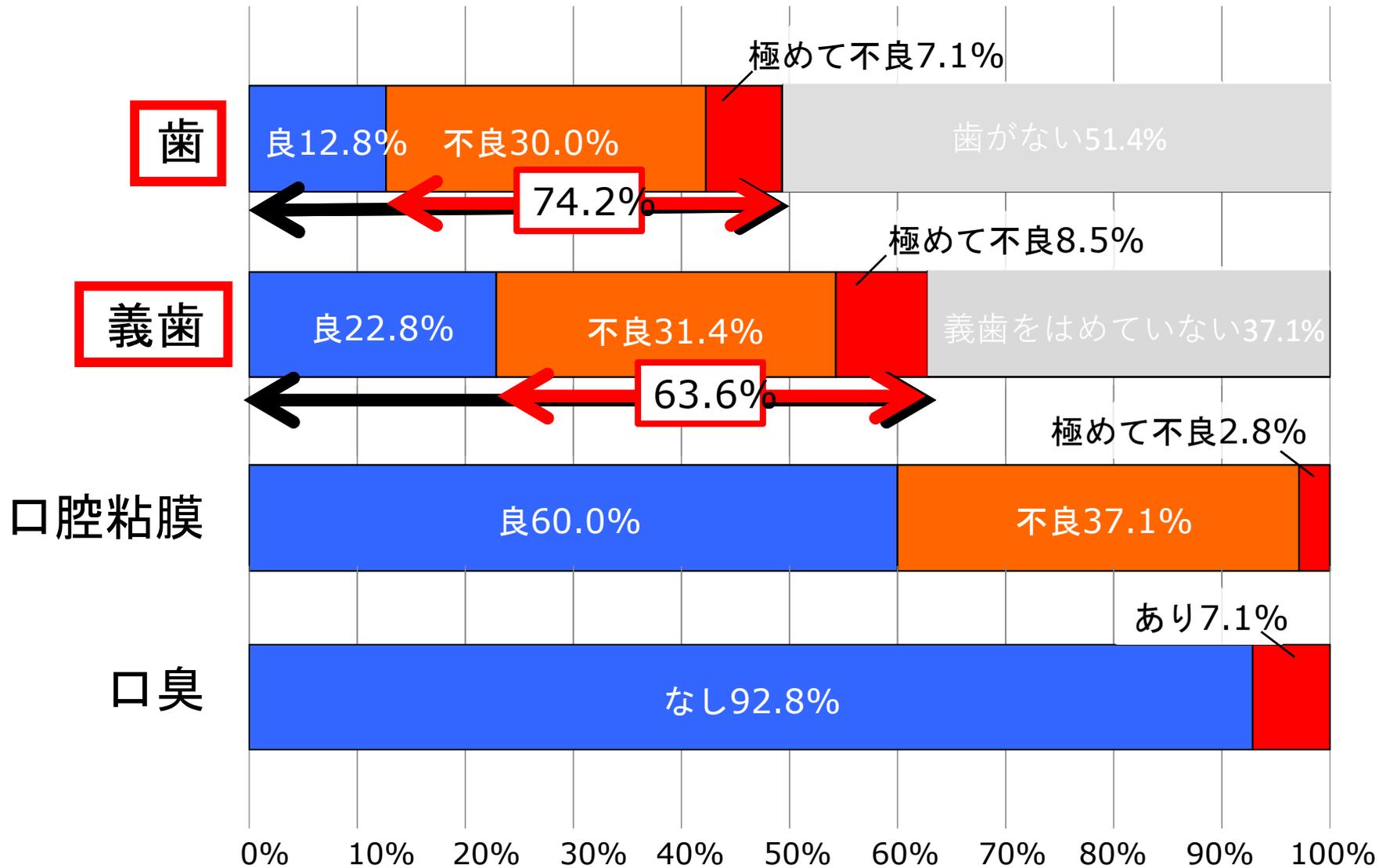
口腔清掃自立度

対象：平成29年度訪問口腔指導事業実施者70人



口腔の衛生状況

対象：平成29年度訪問口腔指導事業実施者70人

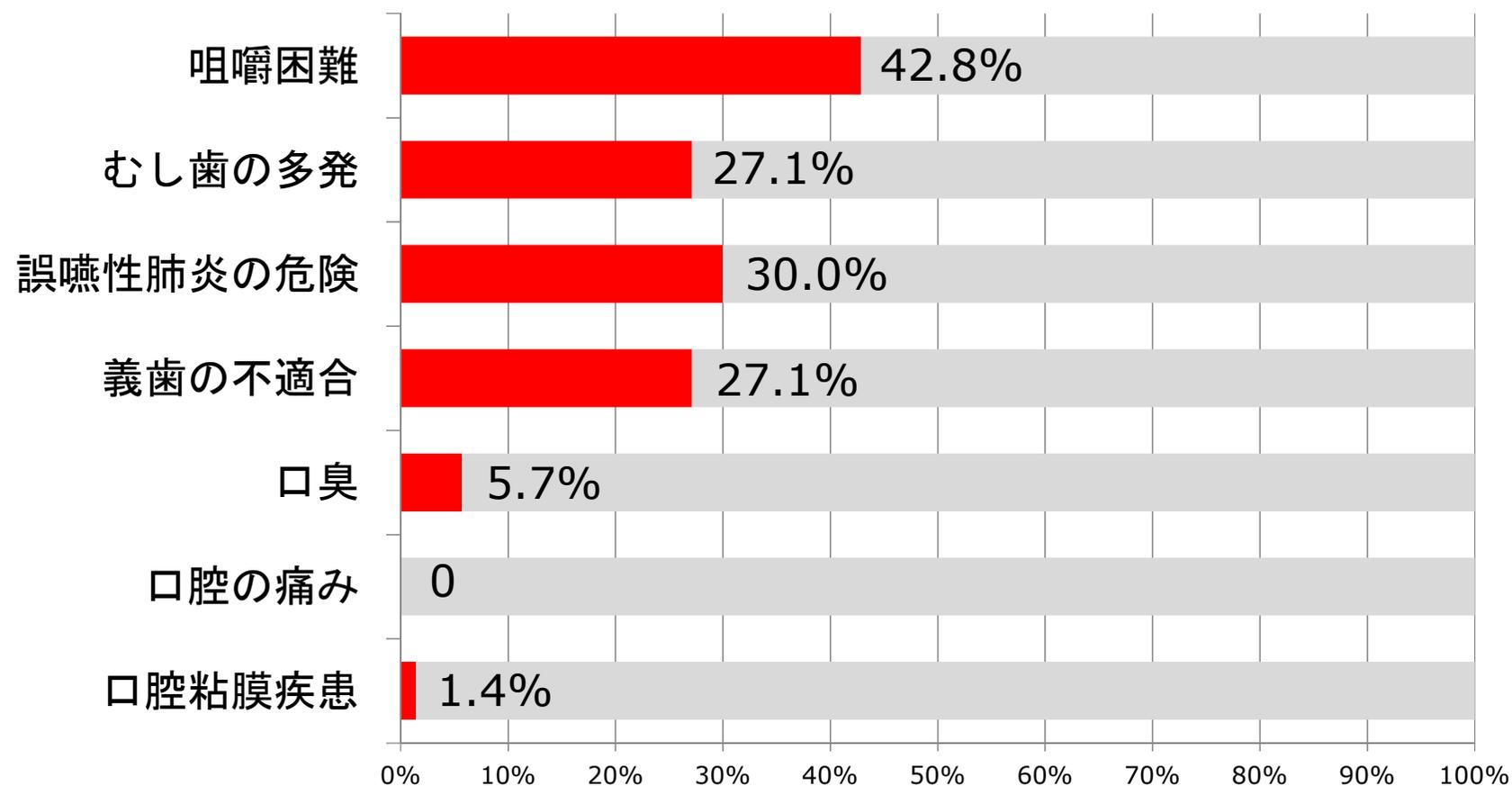


平成30年2月13日現在

平成29年度

現在または将来、発生の可能性が高い口腔問題

N=70



平成30年2月13日現在

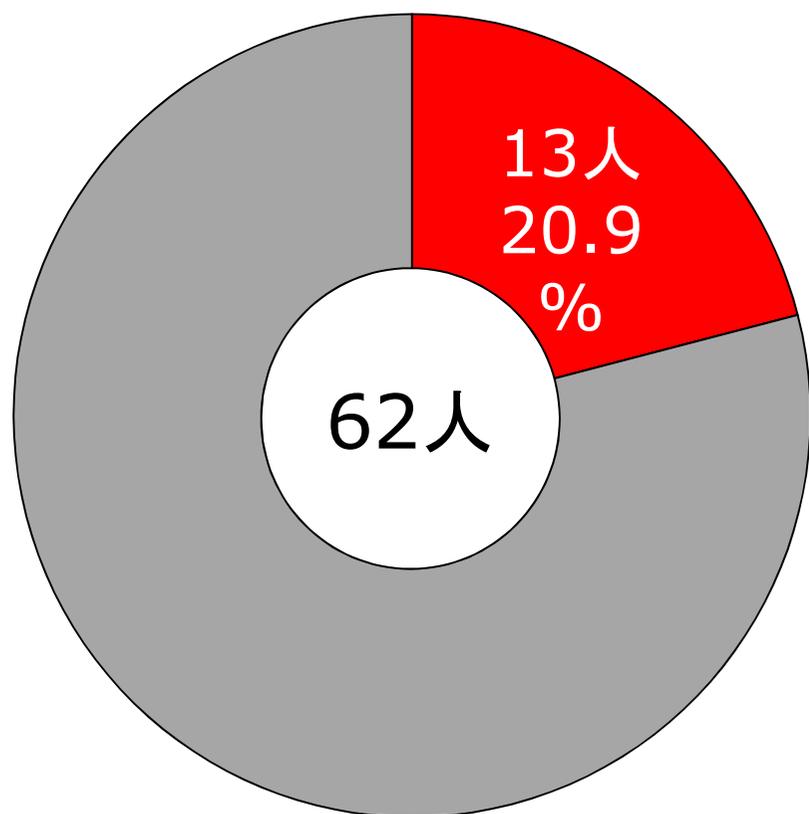


歯科専門職による訪問歯科診療

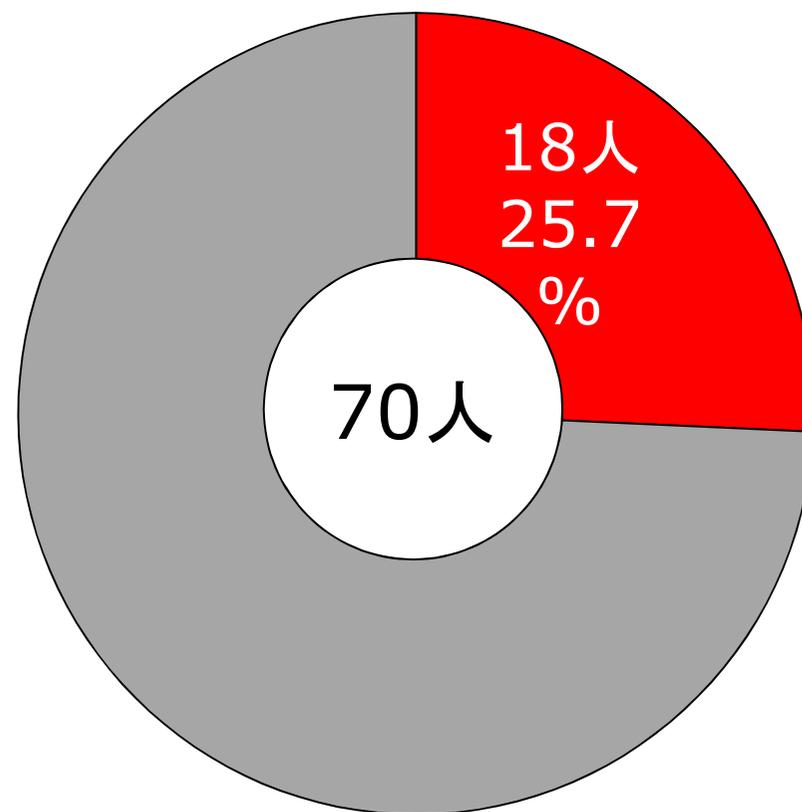


「歯科医療」の受給につながった者

平成28年度 → 平成29年度



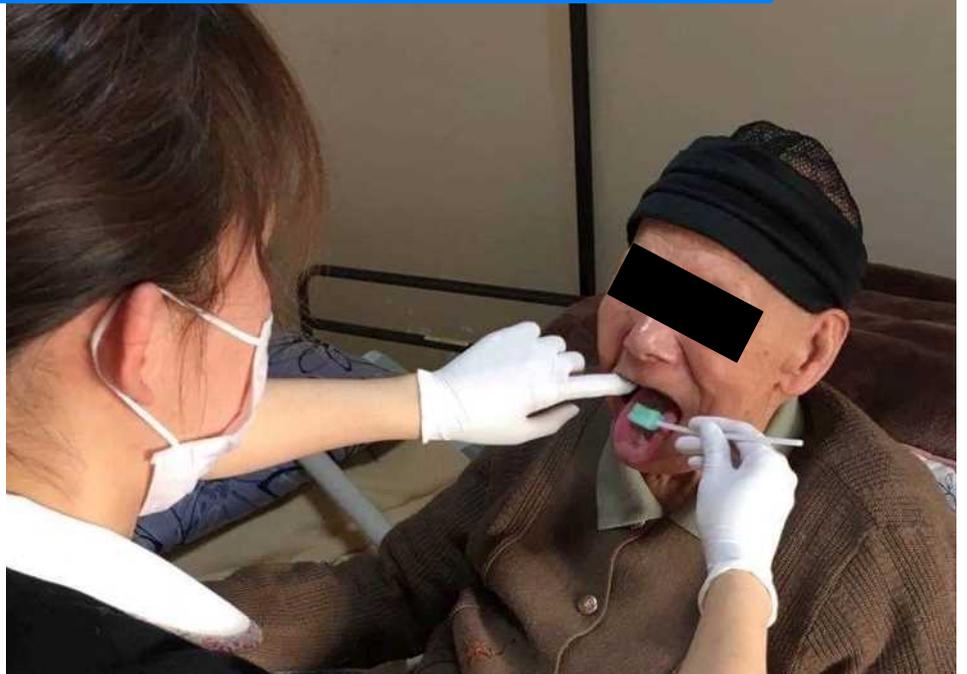
平成29年2月24日現在



平成30年2月13日現在



歯科専門職による居宅療養管理指導

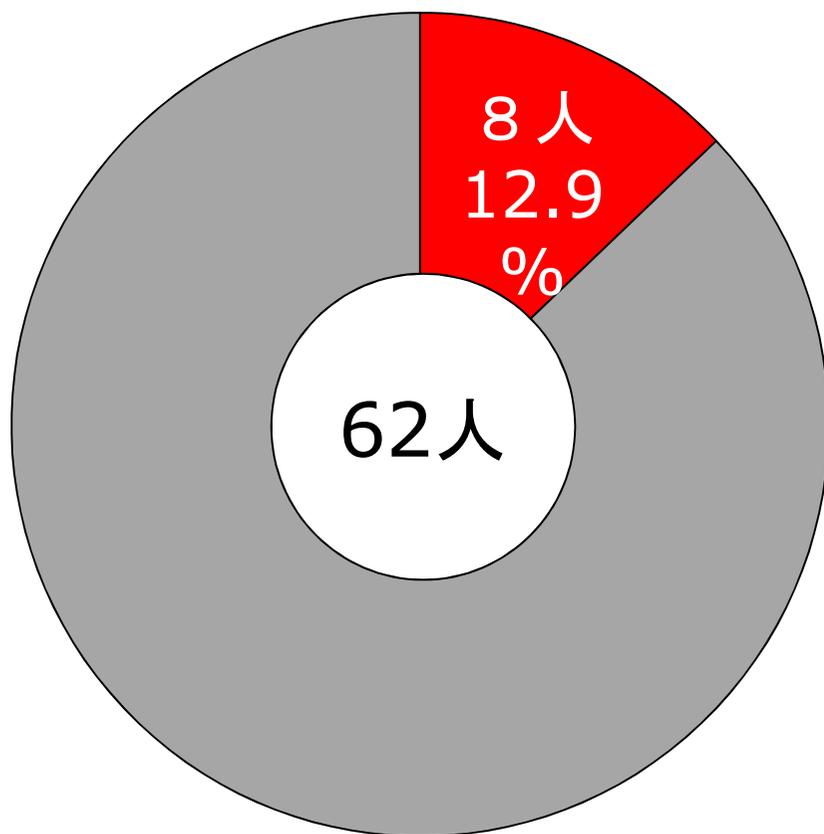


「居宅療養管理指導」につながった者

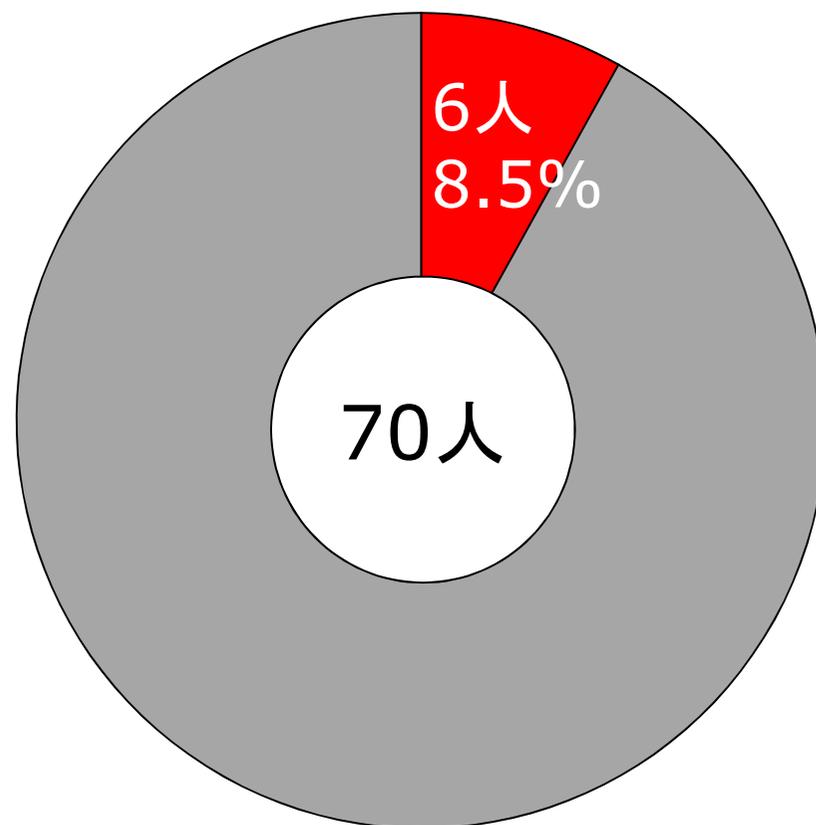
平成28年度



平成29年度

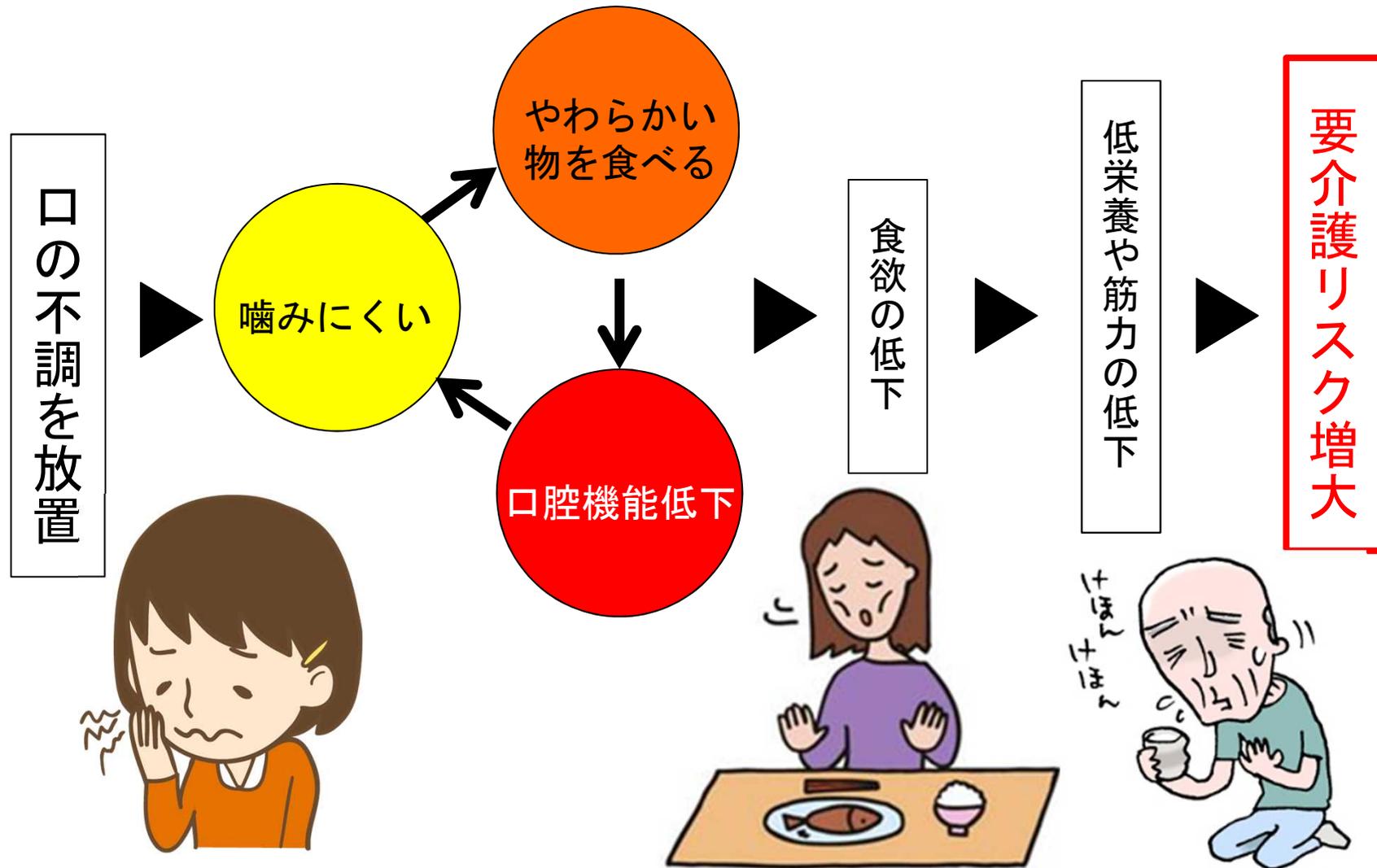


平成29年2月24日現在



平成30年2月13日現在

口のトラブルは虚弱のサイン





- 83歲男性
- H16腦梗塞、右麻痺
- 要介護度 5





- 咀嚼機能
- 栄養状態

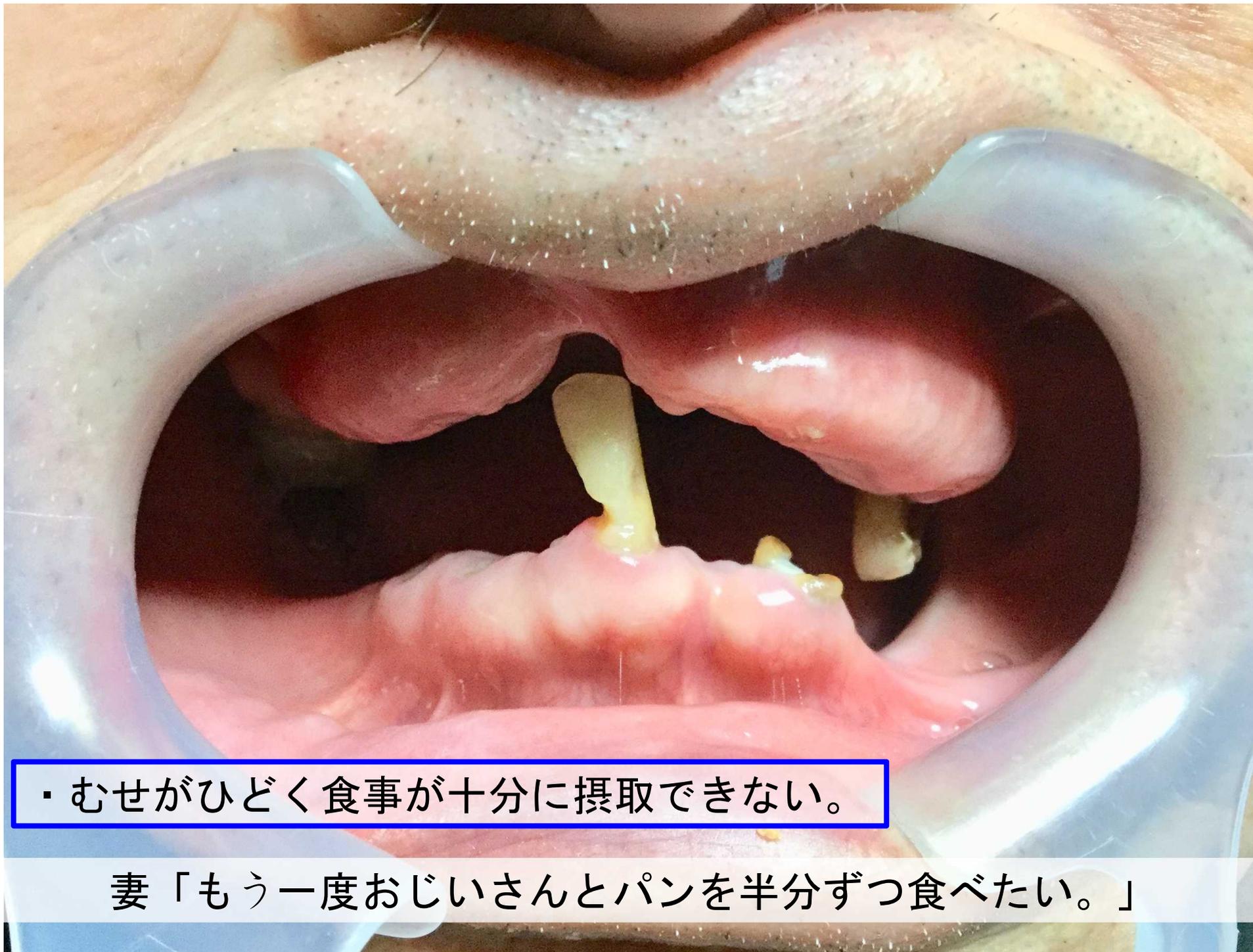


家族の声

以前は頻繁に発熱、肺炎に罹患、入院を繰り返していたが、歯科が介入後、全くなくなった

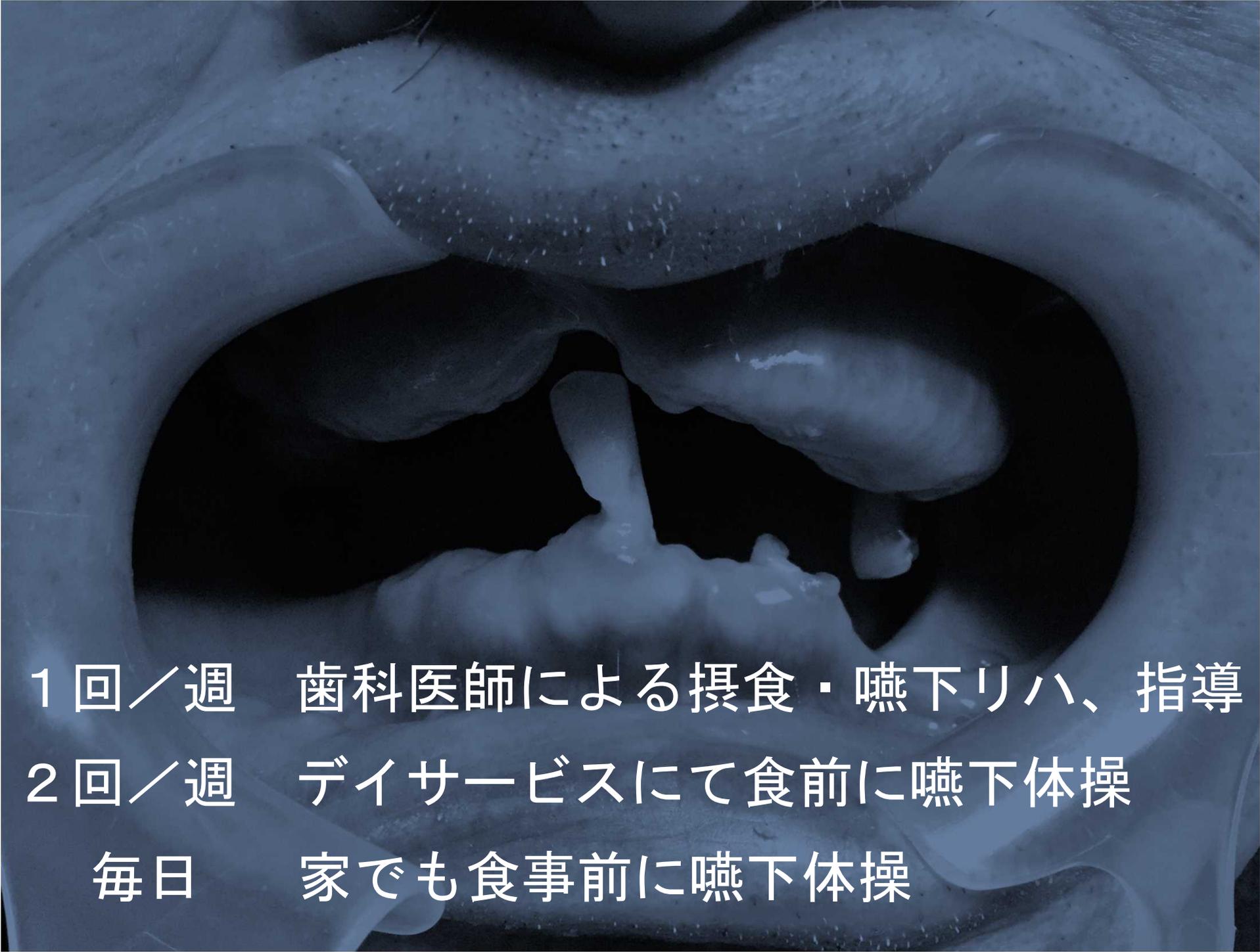


- 91歳男性
- アルツハイマー型認知症
- 誤嚥性肺炎退院後
- 要介護度5



・むせがひどく食事が十分に摂取できない。

妻「もう一度おじいさんとパンを半分ずつ食べたい。」

A close-up photograph of a person's mouth wearing a clear plastic dental appliance. The appliance covers the upper and lower teeth, leaving a central opening. The person's tongue is visible, resting on the appliance. The background is dark, making the white appliance and the person's teeth stand out.

1回／週 歯科医師による摂食・嚥下リハ、指導
2回／週 デイサービスにて食前に嚥下体操
毎日 家でも食事前に嚥下体操

H28.11.3

H30.2.1

33.6kg



40.2kg

要介護度 5



要介護度 3

家族「なんでも食べられるようになり元気になりました」

H29年度 事業評 価



【介入前】 感染性肺炎 0.68回/1人月
誤嚥性肺炎 0.09回/1人月

【介入後】 感染性肺炎 0.55回/1人月
誤嚥性肺炎 0.07回/1人月

まとめ

1. 相変わらず要介護高齢者の口腔衛生状況はかなり悪い。
歯の衛生状況が不良な者は74.2%、義歯の衛生状況が不良な者は63.6%であった。介入することで感染性肺炎、誤嚥性肺炎が抑制できた。
2. 要介護高齢者が抱えている口腔問題の中で一番多いのは咀嚼障害であり42.8%であった。
3. 摂食・嚥下障害のある高齢者に歯科が積極的に介入することにより食事介助が楽になったり、低栄養の改善、明らかにQOLが向上しているケースを多く経験できた。
4. 後期高齢者のフレイル予防を図るためには、口腔ケア（口腔管理）を含む歯科的介入が必要不可欠だと思われる。